

32 週 第四戒

質問 57. 第四戒は、何ですか。

答え I 第四戒は、「安息日を覚えて、これを聖とせよ。六日のあいだ働いてあなたのすべてのわざをせよ。七日目はあなたの神、主の安息であるから、なんのわざをもしてはならない。あなたもあなたの息子、娘、しもべ、はしため、家畜、またあなたの門のうちにいる他国の人もそうである。主は六日のうちに、天と地と海と、その中のすべてのものを造って、七日目に休まれたからである。それで主は安息日を祝福して聖とされた。」です。

質問 58. 第四戒が、求めるのは何ですか。

答え I 第四の戒めが求めるのは、神のみことばに定めた日を、聖なる日として守りなさいということです。すなわち、七日の中で、一日を、終日、神に聖なる安息日として守ることが求められています。

質問 59. 神が七日のうちに、どの日を、安息日と定めたのですか。

答え I 神は、世の始まりからキリストの復活までは、週のうちの七日目を安息日として定めました。しかし、復活の後から世の終わりまでは、週のうちの第一日目を命じられますが、それは、キリスト者たちの安息日です。

質問 60. 安息日を、聖く守る方法は、何ですか。

答え I 安息日を聖く守る方法は、その日は、終日、聖く休み、ほかの日に合法的にできる世的なことや、娯楽からも休み、すべての時間を公的礼拝と私的礼拝とに使用することです。ただ、やむを得ない場合や、慈悲を施す場合には例外です。

質問 61. 第四戒が、禁ずるのは何ですか。

答え I 第四の戒めが禁じているのは、求められる義務を履行しなかったり、不注意に行うことです。そして怠けることと、罪となる行為を行ったり、あるいは、世的な話と娯楽に関する不必要な考えと言葉、行いをする事で安息日を汚すことです。

質問 62. 第四戒に、付け加えられた論理は、何ですか。

答え I 第四の戒めに付け加えられた論理は、神が、私たちの事ができるように、週のうち六日を許可し、七日目は、ご自身の特別な所有権を主張なさって、ご自分が模範を見せられ、安息日を祝福なさったということです。

解説

第四戒の意味

第一戒は、礼拝の対象のことを語り、第二戒は、礼拝の手段と関連されていて、第三戒は、礼拝の態度に対することです。そして、第四戒は、礼拝の時間について

て語っています。第四戒は、私たちが神に捧げるべき礼拝の時間が定められていると語っています。神は、ご自身のみことばにおいて、一定の礼拝時間を定められたことをはっきり仰せられます。神は、七日のうちに、一日を聖なる日として区別し、その日を全き安息日として守ることを仰せられ、神に礼拝することを忘れることができなくさせました（エゼキエル 22:26）。第四戒は、神が創造なさった後、直接、模範を見せることで、神が、安息日を制定なさったことを明白にしています。安息日法は、儀式法ではなく道徳法です。

安息日から、主日に

神は、七日のうち、七日目を安息日として定めました。それは、神の創造を記憶し、神に必ず礼拝すべきであることを記憶させるためでした。モーセを通して儀式法が与えられますが、安息日戒と儀式法は相互連結されます。しかし、イエス・キリストが十字架で死なれたことで、儀式法は必要なくなりました。ですが、そうだからと言って、安息日戒まで、なくなった訳ではありません。イエスさまは、その日を、週の初めの日に移すことによって、安息日の意味は継続されています（使徒 20:7）。そのため、キリスト者たちは、キリストの復活以降は、週の初めの日を安息日として守ることで（黙 1:10、I コリント 16:1-2）。

安息日を守る方法

私たちは、安息日に、世的な働きと娯楽から休むことです。ここで言う、世的なことや娯楽とは、ほかの日にできる合法的なことを意味します。安息日に仕事を休んだために世的損失があったとしても、先ず神に、従順するのが当然です。私たちにすべてを供給してくださる神を、先に考えるべきです。

反面、安息日にすべきことは、次のようなことです。先ず、公的礼拝に参加し、

神の民たちと共に賛美を捧げ、みことばを聞くことです(イザヤ 66:23)。公的礼拝が終わった以降は、無駄なことに時間を浪費しないで、家庭に戻ってその日に聞いたみことばを暗唱し、家族に教理問答書を教え、詩篇の歌などを歌い、祈りを捧げることです。そして、神のみことばを互いに分かち合うのが良いです。

第四戒が、禁ずること

第四の戒めが禁じているのは、礼拝を捧げないことです。それは、神の民の集いを忘れていないか、捧げないことを意味します。それは、安息日を冒瀆すること、敬虔でない行動です。また、世的なことに関する不必要な考えや、話をするのを禁じています。ただ主の日は、主にあって喜び、楽しみを得る日なのです(イザヤ 58:13-14)。

付け加えられた論理

第四戒に付け加えられた論理は、安息日をより厳格に、効果的に順守できることを勧告することばです。神は、六日の間を仕事するように許可し、ただ、一日をご自身に捧げることを求めておられます(マルコ 2:28)。従って、安息日を自分のために使ってはなりません。神は、ご自身が模範を見せられ、安息日を祝福されました。そうなので、安息日を守ることで、私たちが、神の祝福を受けるようになさいました。